

【保健研究センター 7月だより】

～（速報）今夏の手足口病の原因ウイルスについて～

現在、本県では乳幼児を中心に手足口病の患者が急増し、警報レベルに達しています。今年の患者報告数は大流行となった 2011 年に次ぐ勢いです。今月のセンターだよりでは、主に医療機関の関係者の方に、手足口病の原因ウイルスについて近況を報告します。

手足口病原因ウイルスの経年変化について

手足口病の主因となるウイルスは、コクサッキーウイルス A 群 16 型やエンテロウイルス 71 型などエンテロウイルス属の複数のウイルスがあるため、一度罹患しても他のウイルス種の感染で再び発症する可能性があります。

原因となるウイルスは表 1 に示したとおり年毎に変化しています。

表1. 本県の手足口病患者検体から検出したウイルス種(2008-2013)

ウイルス	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
CA 4			1			
CA 6				8		1
CA 9					1	
CA 16	10			2		
E 9					1	
EV 71		1	13			4

CA:コクサッキーウイルスA群

E:エコーウイルス

EV71:エンテロウイルス71

今夏の奈良県の状況等について

2011 年に大流行したコクサッキーウイルス A 群 6 型に罹患歴のある 2 歳以上の幼児は他のウイルスによる感染が予想されません。

現在までのところ、感染症発生動向調査における今夏の当センターの検査結果では、エンテロウイルス 71 型が多数を占めています(表 2)。エンテロウイルス 71 型は他のウイルスより重症化する傾向があり、髄膜炎や脳炎の合併に注意が必要とされています。

一方、他府県ではコクサッキーウイルス A 群 6 型による手足口病の流行の報告もあり、罹患歴のない 0～1 歳児はこのウイルスの感染も疑われ、年齢層によって罹患するウイルスが異なる可能性も考えられます。

コクサッキーウイルス A 群 6 型は一般的に手足口病よりもヘルパンギーナの原因ウイルスとして知られています。今夏のコクサッキーウイルス A 群 6 型による手足口病患者は、2011 年と同様に大きな水疱の形成や、水痘様の発疹が見られるとの臨床情報もあり、特徴があるようです。

表2. 今夏の手足口病患者の遺伝子検査結果(7月24日現在)

検体採取日	年齢	エンテロウイルス遺伝子検査結果
6月27日	10ヶ月	陰性
7月2日	2歳	陰性
7月2日	2歳	陰性
7月5日	1歳	陰性
7月5日	3歳	陰性
7月6日	4歳	エンテロウイルス71型
7月8日	7ヶ月	陰性
7月8日	4歳	陰性
7月11日	10ヶ月	エンテロウイルス71型
7月12日	3歳	エンテロウイルス71型
7月13日	4歳	エンテロウイルス71型
7月16日	5歳	コクサッキーウイルスA群6型

(ウイルス・疫学情報チーム 米田 記)